

古代太宰府を再訪

大宰府はかつて、国政および外交の非常に重要な中心地でした。この地域は、アジア大陸との文化的なつながりが強く、近代思想や文化的洗練の拠点となっていた。しかし、12 世紀になると、国の支配権が武士や大名の手に落ち、都市の影響力は弱まっていきました。過去 50 年間の発掘調査で、古代太宰府の威容が明らかになりました。考古学的な発掘物や航空写真を見ると、太宰府のかつての設計や組織がより明確にわかります。

発掘後は遺構を守るために埋め戻していること、建物があつた場所がわかるように、平面表示をして整備されており、まわりの景観を守っていたことなどの地域の歴史を体感できます。この排水溝など、いくつかの発見物は意図的に見れるままになっています。この排水溝は約 1350 年前のもので、元の場所に保存されています。博物館の壁はその周りに建てられました。

ここに見える大きな岩も注目のアイテムです。礎石であり、ここの遺跡には大きさが合いません。この石の起源と目的は長く謎であり、将来の発掘によって解明されることを願っています。

博物館は地域社会と密接に協力し、懸念に耳を傾け、進行中の発掘作業が住民を妨げないようにしています。また、太宰府の豊かな歴史や日本の歴史における役割についての情報を保存し、広めるために、地域の住民がボランティアプロジェクトに参加しています。